

# 令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立出雲中学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・基本的な内容の定着を目指し、多くの問題に取り組みさせた。結果として基礎的な問題の正答率が上がった。(3年)
- ・授業の中で、問題演習の時間を多めに設定し、生徒同士で教え合ったりする中で、数学的な見方・考え方を生かして問題を解こうとする態度を育てるよう努めた。「文字式」の計算は目標値と同等の正答率があった。(2年)

### (2) 課題

- ・計算問題は区平均を上回る正答率だったが、統計の問題では区平均より下回っているのが課題とみられる。(3年)
- ・多くの領域において未定着の部分が多く、目標値を下回っているものが大半を占めている。とくに「一次方程式」の領域で目標値を20ポイント以上下回っているものがあり、教科全体の理解の妨げになっていると考えられる。(2年)

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	文字と式、面積や体積、平面図形等では目標値と同等だったが、整数の性質、小数・分数の計算、データの活用やグラフの読み取りにおいて目標値を大きく下回っている。		
第2学年	計算や関数は比較的正確しているが、図形と統計では正答率が低かった。	計算や関数は比較的正確しているが、図形と統計では正答率が低かった。	
第3学年	どの領域も昨年度の結果より平均1.2ポイント上回った。区平均よりは平均0.1ポイント上回った。ただ、「データの分布の傾向」の分野では区平均より1.6ポイント下回ったのが課題と思われる。	「式の計算」「1次関数」「平面図形」「確率」「箱ひげ図」の問題で、目標値と同等の正答率である問題があったが、それ以外では目標値を下回った。特に「連立方程式」の問題では、全ての問題で目標値を10ポイント以上下回った。	「文字式」や、引き続き「平面図形」では目標値と同等であるが、それ以外の項目では、目標値を下回っている。昨年度課題であった、「データの活用」では「データの散らばりと代表値」の項目で目標値を上回る項目もあった。

### (2) 分析(観点別)

#### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
整数の性質、小数・分数の計算、比の式、場合の数、データの活用の領域において未定着の部分が多く、目標値を10～20ポイント下回っている。	知識・技能の観点に比べると、目標値と同等な設問が多いが、円の面積に関する設問で、目標値を7ポイント下回った。	意欲的に授業に取り組む生徒が多いが、基本的な計算や学習方法が身につけていない生徒も一定数おり、そのような生徒に、どのように支援をしていくかが、今後の課題である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な計算をより効果的に取り組ませる必要がある。特に図形や統計での単元の基礎的な小テストを実施して定着を図りたい。	話し合い活動を増やした成果か昨年度に比べると理解力は向上したといえる。	与えられた課題を終わらせるだけでなく、自ら率先して問題に取り組むよう指導を続ける。生徒が自主的に学ぼうとする態度の育成を図る。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な問題に多く取り組ませた結果、正答率が高まったと思われる。	教科の思考力を問われる問題には、苦手意識を感じている生徒が多いことがわかる。	徐々に主体的に取り組む生徒が増えていることがわかる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小数・分数の計算については、単元で分数・小数が出てくる度に復習の機会を設定する。比の式、場合の数、データの活用に関しては、今後の再出の単元（比例式、確率、データの活用）でスパイラル学習をしていく。	既習事項をもとにして、新たな問題に取り組むような機会を意図的に設定していく。	授業の内容を、主体的に復習をしたり、発展的な問題に取り組んだりできるように、毎時間のワークシートにそれらの情報を明記し、その取り組みを定期的に評価していく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習してから時間の経過している分野ほど、未定着の部分が多くなっているため、1つ1つの分野の学習を進めながら、既習事項をふりかえる場面を意図的に設定していく。	図形や統計の単元では特に、「数学的な考え方」を用いる問題に対して、普段の授業から今までの知識を活かした問題に取り組ませる指導をしていく。	身のまわりの問題への活用がおおむねできているので、重点をおいた指導を継続する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な内容の定着を徹底して行うことを意識する。教科に対する苦手意識を持っている生徒に対しても、最低限覚えなくてはならない内容は理解させるように指導を続ける。また、「データの分布の傾向」については、3学期に再び学習するため、その際に復習も含め指導する。	「数学的な考え方」を用いる問題ができるようになるよう、普段の授業から、今までの知識を活かした問題に取り組ませるよう意識して指導を続ける。	教員主導の授業形態だけでなく、生徒同士で教え合いを行う時間を設けるよう意識する。また、与えられた課題を終わらせるだけでなく、自ら率先して問題に取り組むよう指導を続ける。